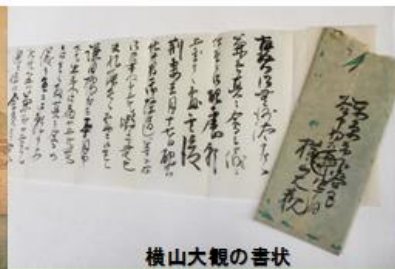


尾崎秀南が描いた郷土の風景

～戦時中の坂出の名所を中心として～



両景橋



横山大観の書状

郷土の隠れた画家

尾崎秀南 風景画

再発見展

～戦時中の坂出の名所を中心として～



白峰宮

弥勢場の湧泉

明治11年(1878)坂本村(現丸亀市飯山町)で生れた尾崎秀南(本名 伸七)は、明治32年(1899)に上京、橋本雅邦に師事し、また、日本美術院の研究員となって研鑽を積みました。主に風景画、歴史画、風俗画等を描き、数多の展覧会に出品し、活躍していました。

しかし、大正12年(1923)の関東大震災により本郷区のアトリエが灰燼に帰し、やむなく帰郷、丸亀に居を構え、郷里で絵筆を揮うことになりました。

開催期間 平成26年9月30日(火)～平成27年3月29日(日)
 開館時間 9:30～16:30(入館は16時まで)
 会場 鎌田共済会郷土博物館 第3展示室
 休館日 月曜日/祝祭日・年末年始(12/29～1/4)
 入館料 無料

(公財)鎌田共済会郷土博物館

〒762-0044 坂出市本町1-1-24
 TEL: 0877-46-2275 FAX: 0877-46-0035
<http://www.kanahaku.jp/>



※アクセス
 高松から一快速バスで約1時間
 岡山から一快速バスで約1時間
 新干線から徒歩約15分 徒歩約15分

鎌田共済会郷土博物館

はじめに

日本画家の尾崎秀南(1878－1964)が、昭和17年から19年にかけて描いた郷土の名所画を中心に、中学生時代のさまざまなスケッチ画も併せてご紹介します。

明治11年(1878)、坂本村(現丸亀市飯山町)で生まれた尾崎秀南(本名 仲七^{なかしち})は、香川県立高松中学校を卒業した後、明治32年(1899)に上京、岡倉天心、橋本雅邦、横山大観、菱田春草らが創立した日本美術院の研究会員となって、日本画の研鑽を積みました。やがて、本郷区にアトリエを構えて本格的に活動を始め、さまざまな展覧会に出品して入賞を重ねるなど、才能を発揮し、東京画壇で活躍していました。

しかし、大正12年(1923)9月、関東大震災によりアトリエが灰燼^{かいじん}に帰し、やむなく帰郷、丸亀に居を構え、郷土の画人と交わりながらも、自ら進んで弟子をとることはせず、ただ黙々と絵筆^{えふで}を揮っていたといえます。

戦時下に描かれた風景画は、どれも静かで平穏な雰囲気^{ふんいき}に満ちています。しかし、この時期は戦況がますます苛烈になり、日本は破滅に向かっていった時であり、また、兄のように慕い尊敬し、支援も受けていた鎌田勝太郎がこの世を去った直後でもありました。

この時60歳を過ぎていた画家の心中はどのようなものであったのでしょうか。やはり国の変転をひしひしとその身に感じ、それとともに寂寥感や追慕の念を抱きながら、あえて静寂の中に身を置いて、郷土の風景に対していたのかもしれませんが。

展覧会

企画展	尾崎秀南が描いた郷土の風景 ～戦時中の坂出の名所を中心として～
会期	2014年(平成26)9月30日(火)～2015年(平成27)3月29日(日)
場所	鎌田共済会郷土博物館 第3展示室

目次

はじめに	1
郷土の名所画	2
現在の郷土の名所風景	10
尾崎仲七(秀南)が描いたスケッチ画など	11
横山大観が尾崎仲七(秀南)に宛てた書状	12
尾崎秀南が遺したスケッチ画など 尾崎和秀氏蔵	13
尾崎秀南 落款印と画材 尾崎和秀氏蔵	14
尾崎秀南 略年譜	15



▲1.坂出神社 昭和17年(1942)

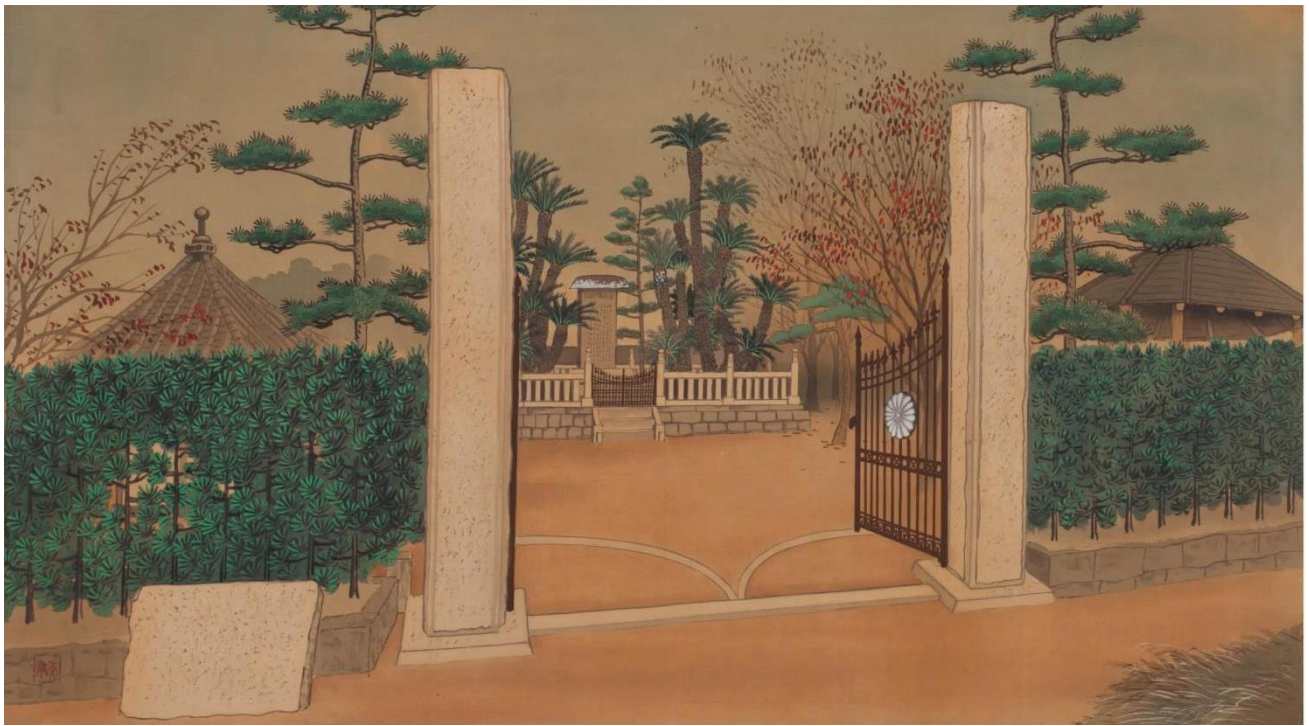
坂出神社は昭和9年(1934)12月に、久米通賢を祀るために坂出市民によって寿町に建造された。この時に、織田朱越作の久米通賢銅像の除幕式も行われた。

その後、昭和39年(1964)に国道11号線拡幅のため、隣接していた塩竈神社とともに、聖通寺山中復に遷座。

なお、描かれている通賢像は昭和18年(1943)に戦争のために供出され、現在は昭和37年(1962)に再建された矢野秀徳作の像が立っている。



▲2.笠山の眺望 昭和17年(1942) 初秋



▲3.雲井御所址 昭和18年(1943)

林田町中川、綾川の右岸に位置する。保元の乱で敗れ讃岐に配流された崇徳上皇は松山の津に到着したものの御所ができておらず、国司庁の官人であった綾 高遠(高任)の館を仮の御所として、3年間過ごされた。

月日の重なるにつれて都を懐かしがられて

こもまた あらぬ雲井と なりにけり

空行く月の 影にまかせて

とお詠みになった。この歌にちなんで雲井の御所と呼ぶようになったといわれている。



▲4.両景橋 昭和18年(1943)

文政 12 年(1829)、久米通賢が築造した坂出塩田の東・西大浜をつなぐ^{たつのぼり}登運河に架かっていた橋。もとは木造橋であったが、明治 25 年(1892)7 月、坂出塩産合資会社により、石橋が架設された。8 月 1 日には落成式が行われ花火、餅投げ、宝投げ等で大いに賑わったという。通賢の子孫である久米与平が設計施工したアーチ形の美しい曲線を描いたこの橋は、太鼓橋とも呼ばれて親しまれていたが、昭和 21 年(1946)に運河拡張のため撤去された。



▲5.白峰宮 昭和18年(1943)

西庄町弥蘇場の東方に鎮座し、崇徳上皇を祀る。社伝等によると、長寛2年(1164)8月26日に鼓岡で崩御された崇徳上皇の遺体は、京からの沙汰を待つ間弥蘇場(野沢井)の冷水に浸し置かれ、白峰山^{だひ}で荼毘にふされた。その後、この辺りで毎夜神光があり、明の宮という小祠を建てたのが、始まりとされている。



▲6.八幡神社 昭和18年(1943)1月

坂出市八幡町に位置する。祭神は菅田別命^{ほむたわけのみこと}(応神天皇)。創建年代は不詳。往古、男山八幡宮より勧請され、角山の麓に鎮座。天正3年(1575)中浜へ遷座され、その後、寛文9年(1663)現在の社地に遷座された。文政12年(1857)には高松藩主・松平頼恕^{とよむすな}が久米通賢に命じてこの地に墾田を造ったことにより戸口が増し、崇敬者も多くなった。明治12年(1879)、坂出一村の産土神となった。



▲7.弥蘇利場の湧泉 昭和18年(1943)

別名野沢井ともいう。湧き出る水は青く澄み、味は芳醇で、どんな大旱にも涸れたことがないとされる。

景行天皇の時代の讃留霊王悪魚退治の伝説と、保元の乱(1156)後、配流され、讃岐の地で没した崇徳上皇の遺体を浸し、勅使の来るのを待った場所としても知られている。なお、湧泉の傍らにある、[崇徳天皇御殯殮御遺蹟]の碑は、昭和4年(1929)に建てられたもので、碑の文字は鎌田勝太郎の筆によるものである。

※殯殮：遺骸を棺に納めたまましばらく安置すること



▲8.弥蘇利場の湧泉 昭和18年(1943)12月



▲9.三十六古戦場 昭和18年(1943)

林田町にあり、細川清氏が従弟の頼之と戦って兵士36人とともに討ち死にした場所と伝えられる。

南北朝期、細川清氏は將軍足利義詮の執事を勤めていたが、まもなく讒言※ざんげんにあい、謀反もはんの疑いを受けて南朝方に走った。四国平定をねらって、阿波を経て讃岐に入り、三木郡白山の麓に陣を置き、次いで白峰山麓の高屋に城を構えた。

一方、頼之は備中で山陽道一帯の南朝方の反乱を鎮圧中であったが、義詮から清氏追討の命を受けて直ちに讃岐国宇多津に入り、青の山の西麓に陣を張った。貞治元年(1362)7月24日朝方、頼之は清氏の居城である高屋城へ押し寄せ戦火を交えたが、頼之の奇策により清氏は手兵を割かれ、突然の奇襲になすすべもなく、この地に滅んだ。この合戦を白峰合戦という。

※讒言※ざんげん：事実を曲げたり、ありもしない事柄を作り上げたりして、その人のことを悪く言うこと



▲10.西大浜の眺望 昭和18年(1943)5月
(塩田之図)



▲11. 鼓岡 昭和19年(1944)秋

讃岐国府跡の西方にある小丘で、崇徳上皇の御所があった場所と伝えられる。

上皇は保元の乱で敗れ、保元元年(1156)7月、讃岐に配流となり、松山の津に到着、松山の御堂(雲井御所)で3年間滞在后、この鼓岡に造営された木の丸殿に移り6年間を過ごされたと伝えられる。



▲12. 公会堂 昭和19年(1944)秋

この建物はもと綾歌郡公会堂であったが、綾歌郡役所の事務の閉鎖に伴い、坂出町に移管され、大正15年に坂出公会堂となった。現在この地には坂出市民病院が建っている。正面の山は飯塚山(讃岐富士)。



▲13.香風園 昭和19年(1944)12月

鎌田勝太郎(淡翁)が明治41年(1908)に築庭に着手し、同43年に完成した築山泉水庭。設計者は宮内省の市川技師、造園は岡田伊三郎庭師が当たったが、植樹、配石等はすべて淡翁の指示によったという。中央奥に描かれた赤い屋根の建物は、鎌田共済会図書館(現郷土博物館)である。



▲14.国分寺 昭和19年(1944)

国分寺町国分にある、真言宗御室派の寺院。白牛山千手院と号し、本尊は木造千手観音立像。四国霊場80番札所。天平13年(741)聖武天皇が発した国分寺建立の詔により、建立された。建立当時の国分寺の寺域とされる場所には、土堀や土塁跡、金堂跡、塔跡、講堂跡等が確認されており、およそ2町の規模であったことがわかる。現本堂は、讃岐国分寺の講堂跡に鎌倉中期に建立されたものである。



▲15. 蔦島 昭和19年(1944)6月

仁尾港の沖合西方約1キロの^{ひうちなだ}燧灘上に浮かぶ島。北側の大蔦島と南側の小蔦島に分かれる。かつては春の桜、ツツジ、夏の海水浴、秋の紅葉と四季を通じ観光客で賑わった。また、小蔦島には縄文時代の遺跡があり、小蔦島貝塚としてよく知られている。



▲16. 琴弾山 昭和19年(1944)7月

観音寺市観音寺町の北側を流れる財田川河口近くの三架橋を渡ったところに位置する琴弾公園のなかにある標高60メートルの山。山頂に琴弾八幡宮、東の山腹に四国霊場第67番札所の観音寺がある。象が鼻展望台からは、白砂青松の有明浜、寛永通宝の砂絵、伊予の山並み、燧灘に浮かぶ島々を望むことができる。



▲3.雲井御所址



▲4.両景橋



▲5.白峰宮



▲7.弥蘇^{やそは}場の湧泉



▲8.弥蘇^{やそは}場の湧泉



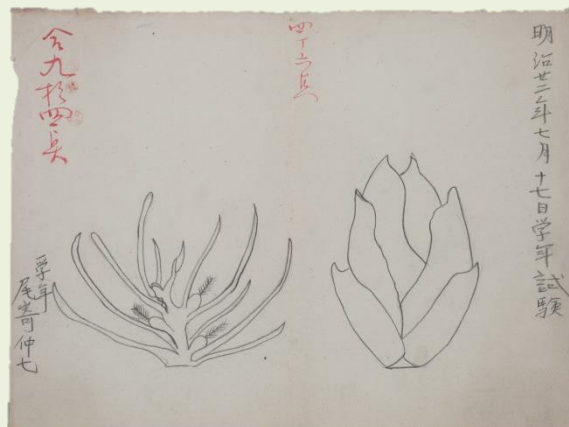
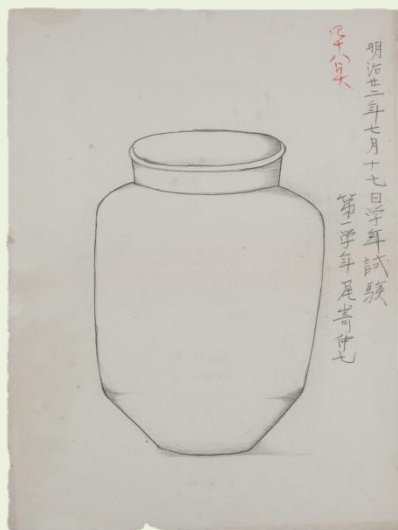
▲9.三十六古戦場



▲11.鼓^{つづみ}岡^{おか}



▲14.国分寺



小学生時代
(明治二十二年)



中学生時代
(明治二十六年〜三十年)



香川縣綾歌郡坂田
尾崎仲七殿
御無沙汰申上候
御清光奉賀
過日は御親切之段
被下、有難く御親切之段
奉謝候。去月十九日頃
より本院研究生米国人
カーナス氏と立山登山
を仕、旅中又同氏之
病に犯され候為、彼是
延引仕、非常の永旅
と相成、其後家内に
病人有之、院の方には展
覧会等切迫仕候為、
今日迄御返事差上申
候いとまも無之失礼御
免被下度候。真真会趣意書並に
規約三十部御送り
申上候間、何卒多数
御加入の様、是非一御
骨折願上候。未だ全
會員五分一強の申込
より無之、大に痛心仕
居候処に御坐候。幾重
にも拙技御捨なく、御
勸誘なし被下度願上候。
此に御坐候。敬具、
九月
廿五日 横山大観
貴下

尾崎仲七殿
御無沙汰申上候
御清光奉賀
過日は御親切之段
被下、有難く御親切之段
奉謝候。去月十九日頃
より本院研究生米国人
カーナス氏と立山登山
を仕、旅中又同氏之
病に犯され候為、彼是
延引仕、非常の永旅
と相成、其後家内に
病人有之、院の方には展
覧会等切迫仕候為、
今日迄御返事差上申
候いとまも無之失礼御
免被下度候。真真会趣意書並に
規約三十部御送り
申上候間、何卒多数
御加入の様、是非一御
骨折願上候。未だ全
會員五分一強の申込
より無之、大に痛心仕
居候処に御坐候。幾重
にも拙技御捨なく、御
勸誘なし被下度願上候。
此に御坐候。敬具、
九月
廿五日 横山大観
貴下

尾崎仲七殿
御無沙汰申上候
御清光奉賀
過日は御親切之段
被下、有難く御親切之段
奉謝候。去月十九日頃
より本院研究生米国人
カーナス氏と立山登山
を仕、旅中又同氏之
病に犯され候為、彼是
延引仕、非常の永旅
と相成、其後家内に
病人有之、院の方には展
覧会等切迫仕候為、
今日迄御返事差上申
候いとまも無之失礼御
免被下度候。真真会趣意書並に
規約三十部御送り
申上候間、何卒多数
御加入の様、是非一御
骨折願上候。未だ全
會員五分一強の申込
より無之、大に痛心仕
居候処に御坐候。幾重
にも拙技御捨なく、御
勸誘なし被下度願上候。
此に御坐候。敬具、
九月
廿五日 横山大観
貴下

尾崎仲七殿
御無沙汰申上候
御清光奉賀
過日は御親切之段
被下、有難く御親切之段
奉謝候。去月十九日頃
より本院研究生米国人
カーナス氏と立山登山
を仕、旅中又同氏之
病に犯され候為、彼是
延引仕、非常の永旅
と相成、其後家内に
病人有之、院の方には展
覧会等切迫仕候為、
今日迄御返事差上申
候いとまも無之失礼御
免被下度候。真真会趣意書並に
規約三十部御送り
申上候間、何卒多数
御加入の様、是非一御
骨折願上候。未だ全
會員五分一強の申込
より無之、大に痛心仕
居候処に御坐候。幾重
にも拙技御捨なく、御
勸誘なし被下度願上候。
此に御坐候。敬具、
九月
廿五日 横山大観
貴下

拝啓

御無沙汰しております。いよいよお元氣の事と存じお慶び申し上げます。過日はわざわざ手紙を下され、ありがたく御親切を感謝します。先月十九日頃より美術院研究生米国人カーナス氏と立山登山の旅をしたところ、途中で同氏が病に冒され、長旅となりました。去る十三日に帰京、その後、家内に病人があり、美術院では展覧会等が差し迫っており、今日まで返事を差し上げる暇がなく失礼いたしました。お許しください。真真会趣意書並びに規約を三十部お送りしますので、多数ご加入くださるよう、御骨折りをお願いいたします。また、全會員の五分の一強の申込みしかなく心を痛めております。重ねてお願い申し上げます。どうぞ、私の拙い技をお見捨てなく、勧誘をしてくださるようお願いいたします。取り急ぎ用件まで。

九月廿五日

※真真会：明治三十五年三月二十日に横山大観と菱田春草が、外遊資金調達のために創設、作品頒布会。

横山大観

敬具

●横山大観(1868-1958)

近代日本画壇の巨匠。菱田春草と共に、朦朧体と呼ばれる、線描を抑えた、独特のぼかしの技法を確立。
菱田春草とは無二の親友で常に行動を共にした。

香川縣綾歌郡坂田
尾崎仲七殿
御無沙汰申上候
御清光奉賀
過日は御親切之段
被下、有難く御親切之段
奉謝候。去月十九日頃
より本院研究生米国人
カーナス氏と立山登山
を仕、旅中又同氏之
病に犯され候為、彼是
延引仕、非常の永旅
と相成、其後家内に
病人有之、院の方には展
覧会等切迫仕候為、
今日迄御返事差上申
候いとまも無之失礼御
免被下度候。真真会趣意書並に
規約三十部御送り
申上候間、何卒多数
御加入の様、是非一御
骨折願上候。未だ全
會員五分一強の申込
より無之、大に痛心仕
居候処に御坐候。幾重
にも拙技御捨なく、御
勸誘なし被下度願上候。
此に御坐候。敬具、
九月
廿五日 横山大観
貴下

尾崎仲七殿
御無沙汰申上候
御清光奉賀
過日は御親切之段
被下、有難く御親切之段
奉謝候。去月十九日頃
より本院研究生米国人
カーナス氏と立山登山
を仕、旅中又同氏之
病に犯され候為、彼是
延引仕、非常の永旅
と相成、其後家内に
病人有之、院の方には展
覧会等切迫仕候為、
今日迄御返事差上申
候いとまも無之失礼御
免被下度候。真真会趣意書並に
規約三十部御送り
申上候間、何卒多数
御加入の様、是非一御
骨折願上候。未だ全
會員五分一強の申込
より無之、大に痛心仕
居候処に御坐候。幾重
にも拙技御捨なく、御
勸誘なし被下度願上候。
此に御坐候。敬具、
九月
廿五日 横山大観
貴下

尾崎仲七殿
御無沙汰申上候
御清光奉賀
過日は御親切之段
被下、有難く御親切之段
奉謝候。去月十九日頃
より本院研究生米国人
カーナス氏と立山登山
を仕、旅中又同氏之
病に犯され候為、彼是
延引仕、非常の永旅
と相成、其後家内に
病人有之、院の方には展
覧会等切迫仕候為、
今日迄御返事差上申
候いとまも無之失礼御
免被下度候。真真会趣意書並に
規約三十部御送り
申上候間、何卒多数
御加入の様、是非一御
骨折願上候。未だ全
會員五分一強の申込
より無之、大に痛心仕
居候処に御坐候。幾重
にも拙技御捨なく、御
勸誘なし被下度願上候。
此に御坐候。敬具、
九月
廿五日 横山大観
貴下

尾崎仲七殿
御無沙汰申上候
御清光奉賀
過日は御親切之段
被下、有難く御親切之段
奉謝候。去月十九日頃
より本院研究生米国人
カーナス氏と立山登山
を仕、旅中又同氏之
病に犯され候為、彼是
延引仕、非常の永旅
と相成、其後家内に
病人有之、院の方には展
覧会等切迫仕候為、
今日迄御返事差上申
候いとまも無之失礼御
免被下度候。真真会趣意書並に
規約三十部御送り
申上候間、何卒多数
御加入の様、是非一御
骨折願上候。未だ全
會員五分一強の申込
より無之、大に痛心仕
居候処に御坐候。幾重
にも拙技御捨なく、御
勸誘なし被下度願上候。
此に御坐候。敬具、
九月
廿五日 横山大観
貴下

拝啓、御無沙汰申上候。兼而真々会之儀二付、色々御配慮願上置申候処、其後、秋妻去月十七日死去仕候為、御終過等に付御尋ね申上候暇も無之、失礼罷在候。二御坐候、鎌田様分も本月中には出来、御届申上候。二御坐候、御、真々会の儀も色々御願申上居候。共、兼而申上置候通り位の會員より今に出来不申、豫期之員数相集め申候事ハ短日月に甚困難に存のみならず、一方には渡欧之期来夏若くハ来秋に相定め申候様之事情有之候。本月より各地有力家之御配慮を蒙りて、漫遊之方針ヲ相取り、獲たる取得ヲ相加へ候様改候は、或ハ殊ニ早く豫期之數ニ相満ち候かとも存じ申候。尤も漫遊中ハ八割料其他とも其地之情況ニ相從、其地之可申苦ニ御就而、鎌田様只今御上京中ノ様新聞にて拝承仕候へとも、本月廿日頃貴兄を頼りて、御地坂出町二第一着之漫遊を試みて、御申候間、何卒宜敷御願申上度、御高配單ニ懇願仕候。猶、菱田春草兄も同行仕候、折返し御返事被下度願上申候。敬具、十一月四日 横山大観

拝啓

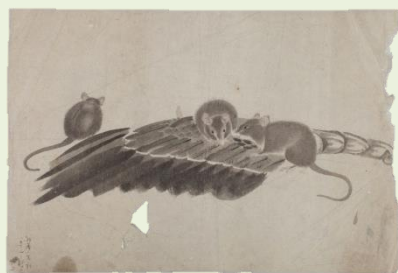
御無沙汰しております。かねてより、真真会のごことは御配慮をお願いしておきながら、妻が先月十七日に亡くなったこともあり、その後の経過を尋ねる暇もなく失礼しておりました。鎌田様より「注文」いただいた作品も本月中には完成し、お届けできる予定です。さて、真真会のことを色々お願いしておりますが、かねて申し上げている通りの會員数が思う以上には集まらず、予定の人数を集めることは、短い期間では、甚だ困難と存じております。一方、渡欧の時期は来夏もしくは来秋に決めており、本月より、各地の有力家に御配慮をいただいて漫遊の方針をとり、得られた収入を加えるようにすれば、早くに予期の數に達するかとも思っています。漫遊中の画料等は、その地の情況に従うこととなります。十一月四日 横山大観

十一月四日
尾崎仲七殿

●菱田春草(1874-1911)

明治期の日本画家。朦朧体の確立や欧米への外遊後に深めた色彩表現などで明治期の日本画の革新に貢献したが、明治44年に37歳で没した。

横山大観





► 秀南所用の画材

和 暦	西 暦	こ と が ら
明治 11	1878	坂本村(現丸亀市飯山町)で生まれる。名は仲七 ^{なかしち}
明治 25	1892	坂出高等小学校卒業
明治 25～26	1892～1893	済々学館で学ぶ
明治 26	1893	香川県立高松中学校丸亀分校第二学年に編入、三年の後高松本校に転じる
明治 30	1897	香川県立高松中学校卒業
明治 32	1899	上京し、岡倉天心・橋本雅邦・横山大観・菱田春草らの日本美術院の研究会員となり日本画に励む
明治 34	1901	日本絵画協会秋期展覧会に出品。1 等褒状を受ける この頃、本郷にアトリエを構え、東京画壇で活躍する
明治 35	1902	この頃一時帰郷。鎌田勝太郎宅に身を寄せる -讃岐に於いて模写すべき絵画の用事有之- (日本美術院福田周太郎の書状より)
明治 38	1905	橋本雅邦門下競技会展覧会に出品 2 等賞を受ける
明治 41	1908	日本美術院主催玉成会展覧会に出品入選 この年、橋本雅邦が亡くなり、その筆塚を建てるため、横山大観らとともに奔走した
大正 3	1914	美術研精会に出品の屏風「残雪」が宮内省御用品となる
大正 5	1916	第 10 回文部省美術展覧会に出品した「善女」が入選
大正 12	1923	関東大震災でアトリエが灰燼に帰し、やむなく丸亀へ帰り、十番丁に住む
昭和 7	1932	土器町中原に移る
昭和 9	1934	第 1 回香川美術総合展覧会に出品(昭和 18 年の第 9 回から現在の「香川県美術展覧会」に改称される)
昭和 39	1964	87 歳で没す



▶ 盆踊図

この作品は、尾崎秀南が中央画壇で活躍していた大正 10 年頃に描いたもので、秀南の学友から学位を得た知人に、お祝いとして贈られたことが軸裏に記されています。

長い間、千葉県の方が所蔵されていましたが、この度縁あって、当館の収蔵品となりました。

尾崎秀南が描いた郷土の風景 ～戦時中の坂出の名所を中心として～

発 行 2015 年(平成 27) 5 月

編集発行 鎌田共済会郷土博物館

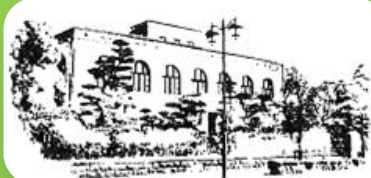
〒762-0044 香川県坂出市本町 1 丁目 1 番 24 号

TEL : 0877-46-2275 FAX : 0877-45-0035

URL : <http://www.kamahaku.jp>



扇面画 昭和9年(1934)頃



鎌田共済会郷土博物館